



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーに対する情報の適正な開示と、相互間の対話・協働に努めます。

お客さまとの対話

日本はもとより世界各国で、当社グループの製品やソリューションをご紹介し、より多くのお客さまと直接対話する機会を設けています。

2018年3月、当社の発展を支える歴史と技術を体感していただく場として、「GLORY NEXT GALLERY」(本社ショールーム)をリニューアルオープンしました。「プロローグ」「ヒストリー&テクノロジー」「コアテクノロジー」「グローリーフューチャー」の4つのゾーンを設け、創業時からの歴史や製品、技術の進化などを、実機や映像などを通してご紹介しています。

また、プライベート展示会の開催や各種展示会への出展などを通じて、国内外のお客さまとのコミュニケーションを図るとともに、本社工場や埼玉工場へご案内し、製造現場を見学していただくことで、当社の生産体制や品質管理についての理解を深めていただいています。



GLORY NEXT GALLERY
(本社ショールーム)



プライベート展示会
(GLORY INNOVATIONAL FORUM) (ドイツ)

株主・投資家との対話

当社は、迅速、正確かつ公平な情報開示によって経営の透明性を高めるとともに、建設的な対話を通じて、当社の経営方針や事業活動への理解につなげ、株主・投資家の皆さまとの長期的な信頼関係の構築に努めています。2017年度は、機関投資家向け埼玉工場見学会を開催したほか、株主さま向けショールーム見学会や個人投資家向け会社説明会を実施しました。

また、ウェブサイト内に株主・投資家向け専用サイトを設け、四半期ごとの決算説明資料や株主さま向け報告書、アニュアルレポートをはじめとした資料を開示し、タイムリーな情報開示と利便性の向上を図っています。



機関投資家向け埼玉工場見学会



株主さま向けショールーム見学会

お取引先さまとの対話

お取引先さまは、高品質な製品を安定的に生産するための大切なパートナーであり、協力体制の確立が不可欠です。当社では、年に一度「お取引先懇談会」を開催し、当社グループの現況や戦略、購買方針などをご説明しています。グローリープロダクツ株式会社や光栄電子工業(蘇州)有限公司、GLORY (PHILIPPINES), INC.においても実施し、グループ全体でお取引先さまとの信頼関係の構築に努め、ともに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。

また、お取引先さまに品質改善事例を発表していただく「品質向上活動発表会」や「基板品質方針説明会」などを開催し、お取引先さま間の情報共有を図る場として活用していただいています。



お取引先懇談会



協力企業懇談会
(光栄電子工業(蘇州)有限公司)

社員との対話

当社では、2012年度より「社長と語る会」を開催しています。社長自らが理念や事業状況を説明し、経営幹部と社員がコミュニケーションを通して相互理解を図ることで、経営活動に対する参画意識やモチベーションの向上につなげることを目的としています。2017年度は全国9拠点で実施しました。加えて、現場巡視や社内イベント、グループ会社訪問などを通して、経営幹部が積極的に社員と交流を図ることで、グローリーグループ全体の一体感醸成につながっています。

また、2008年度より年に一度、本場で「社員のご家族向け会社見学会」を開催し、職場見学や社員食堂の利用、社長との交流などを行っています。



尾上社長による技術展示会視察時の様子



尾上社長による物流センター「EMDC」
(オランダ)訪問時の様子

第三者意見

「グローリーCSR報告書2018」を読んで ・報告書2018にみるグローリーのCSRの進展

今年の報告書では、昨年と比較して、次のような進展を確認することができます。

①中期経営計画が新しく設定され、特に目を引く方針が、昨年までの「収益性向上」から「持続可能な事業運営」へ、「市場ニーズに応える」から「社会課題解決に向けた協働」へと変わっていることです。SDGsを意識し、「サステナビリティ」や「協働」が前面に出た内容となっています。昨年の第三者意見での指摘を取り入れていただき、創業100周年を迎えて、より広い視野と長期的な視点から、グローリーの経営の軸が生まれ変わったといえます。

②マテリアリティ(重要課題)の特定のプロセス、11項目の重要課題と集約された5つのテーマが示されています。具体的な内容には、一昨年の第三者意見での指摘「CSRのKPIsと企業価値向上のKPIsが中長期的に有機的にリンクするようなCSR戦略の設計」、「具体的なアクションプランとKPIsの設定・進捗管理」が取り入れられ、2年間の進展に驚かさず感じます。

③トップによるコミットメントにも、このような進展が表れています。次の100年に向け、「社会課題解決に向けた協働の取り組みを強化」することが打ち出されており、SDGsの社会課題を事業戦略に組み込んでいくことも示されています。

④「ガバナンス」では、2017年にリスク管理規程やリスク評価基準の見直し、グループ全社で同基準のリスク分析・評価を実施し、体制が強化されたことが示されています。

⑤「品質への取り組み」においては、「協働環境を創造する次世代のモノづくり」として、協働型ロボットを活用したシステムインテグレーション事業(ASROF)とその興味深い活用事例などが紹介されています。

⑥「社会貢献への取り組み」では、特に次世代育成のための活動の

阪 智香 氏

関西学院大学学長補佐・
商学部教授・博士

現在、日本学術会議連携会員、大阪府環境審議会委員、日本経営分析学会常任理事、日本ディスクロージャー研究会理事、日本社会関連会計学会理事等。日本会計研究学会学会賞等受賞。



実施や、海外での新たな社会貢献活動への挑戦など、「良き企業市民」としての数多くの実践が読み取れます。

⑦「環境への取り組み」では、ネスティング方式の採用による資源生産性の向上などの成果を読み取ることができます。

・次の100年を見据えて

今年の報告書は、次なる100年を見据えて、グローリーが社会と共に課題の解決に取り組み、サステナビリティを追求しようとする覚悟が読み取れるものです。

筆者は今、世界148カ国の上場企業(8万社超)の30年超の財務データを可視化する研究を行っています。データから見てきたことは、企業の付加価値の分配における労働者vs投資家の問題や、企業の租税回避の実態などです。社会における企業の存在の大きさに鑑みると、企業の果たす役割はますます大きく、そして「協働」はCSV(Creating Shared Value:共有価値創造)を実現する上で不可欠であると思うのです。

マザー・テレサは「世界平和のために(私は)何ができるでしょうか?」と尋ねられた際に、「Go home and love your family」と答えました。SDGsの実現も、すべての組織が、地域やその人々を大切にすることが基盤となる、と思います。グローリーが、地に足のついた地域貢献活動をこれまでずっと実践してきたことは、CSR報告書やステークホルダーの声からも知ることができました。それは次の100年の企業価値創造につながるものと信じています。

第三者意見を受けて

阪先生には、昨年に引き続き、当社グループのCSRに対する貴重なご助言をいただき、誠にありがとうございます。

2018年5月に発表した「2020中期経営計画」は、10年後のありたい姿を描いた「長期ビジョン2028」実現への第1ステップです。フィンテックの広がりや決済手段の多様化、キャッシュレス化の大きなうねりの中で、既存事業をしっかりと守りながら、新事業ドメインにおいて「社会課題解

決に向けた協働」をテーマに新たな「信頼」を実現、提供していくことを約束しています。阪先生には、こうした取り組みをSDGsの観点からも高く評価いただきましたことは、これからの活動への大きな励みとなります。

今後は、長期ビジョンである「人と社会の「新たな信頼」を創造するリーディングカンパニーへ」の実現に向けた取り組みを推進するとともに、取り組み状況に関する適切な情報開示に努めてまいります。



グローリー株式会社
代表取締役副社長

三和 元純